

氏 名	片山 祐
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博 甲第 6886 号
学位授与の日付	2023 年 9 月 25 日
学位授与の要件	医歯薬学総合研究科 病態制御科学専攻 (学位規則第 4 条第 1 項該当)
学位論文題目	Association of alcohol consumption and fatigue in SLE: A cross-sectional study from Lupus Registry of Nationwide Institution (LUNA) cohort (SLE 患者における飲酒と倦怠感との関連:LUNA コホートからの横断研究)
論文審査委員	教授 神田秀幸 教授 森実 真 准教授 久松隆史

学位論文内容の要旨

倦怠感多くの全身性エリテマトーデス(SLE)患者が自覚している。飲酒は SLE の発症に対して保護的であることがこれまでの研究で示唆されているが、SLE 患者での飲酒と倦怠感との関連は研究されていないため検討する。本研究は 2018 年から 2019 年に実施した国内 10 施設 534 人の SLE 患者を対象とした横断研究である。主たる要因は飲酒頻度で、月 1 日未満(なし群)、週 1 日以下(中等度群)、週 2 日以上(高度群)の 3 群に分類した。アウトカムは LupusPRO の Pain Vitality ドメイン。年齢、性別、疾患活動性などの交絡因子を調整し、重回帰分析を行った。対象患者の内、326 人がなし群、121 人が中等度群、87 人が高度群であった。高度群はなし群と比較して、倦怠感が少なかった[$\beta=5.98$ (95%信頼区間 0.19-11.76)]。本研究から SLE 患者において飲酒頻度が多いことは倦怠感が少ないことと関連していることが示唆された。

論文審査結果の要旨

全身性エリテマトーデス(SLE)患者の多くは倦怠感を自覚している。これまでの研究ではSLEの発症に飲酒が保護的に作用することが示唆されている。しかし、SLE患者での倦怠感と飲酒の関連についての検討がみられない。本研究は、この関連を明らかにすることを目的とした。

本研究は2018年から2019年に実施した国内10施設534人のSLE患者を対象とした横断研究である。飲酒頻度は、月1日未満、週1日以下、週2日以上の3群に分類した。倦怠感はLupusPROのPain Vitalityドメインにて評価した。年齢、性別、疾患活動性などの因子を調整し、重回帰分析を行った。結果として、飲酒頻度週2日以上の群は月1日未満の群と比較して、統計的有意差をもって倦怠感が少ないことが明らかとなった。本研究からSLE患者において飲酒頻度が多いことと倦怠感が少ないことと関連していることが示唆された。

委員からは、結果の留意点や研究成果の応用について質問がなされた。SLE重症患者は飲酒できないという因果の逆転が考えられる可能性についての質問に対して、横断研究のためその可能性は否定できないが、女性が多くを占める対象者のため影響は少ない旨の回答がなされた。また、本研究成果の応用に関する質問に対して、SLE患者に飲酒を勧めるのではなく、飲酒ができなくなるような増悪を防ぐことや飲酒パターンの変化に留意した診療に努める旨の回答がなされた。発表は的確で、周辺知識の学習も十分に認められた。

よって、本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。